

10 月 30 日 年間第 31 主日 (日本の典礼では朗読箇所が異なる)

真の幸い

マタイによる福音書 5 章 1～12 節

¹ イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。² そこで、イエスは口を開き、教えられた。

³ 「心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。

⁴ 悲しむ人々は、幸いである、
その人たちは慰められる。

⁵ 柔和な人々は、幸いである、
その人たちは地を受け継ぐ。

⁶ 義に飢え渇く人々は、幸いである、
その人たちは満たされる。

⁷ 憐れみ深い人々は、幸いである、
その人たちは憐れみを受ける。

⁸ 心の清い人々は、幸いである、
その人たちは神を見る。

⁹ 平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

¹⁰ 義のために迫害される人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。

¹¹ わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。¹² 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

他の朗読：黙示録 7：2～4, 9～14 詩編 24：1～6 I ヨハネ 3：1～3

Lectio …読む

マタイによる福音書は、イエスがおもに弟子たちに話す形で、5つの大きな教えに基づいて組み立てられています。これらの最初の教えは、しばしば山上の説教、または至福の教えと呼ばれています。

イエスの支配と法によって地上に設けられる「天の国」と、この世の王国との根本的な違いがこの説教の中心にあります。

イエスは、真の幸いあるいは祝福をもたらす生活様式と態度を9つの言明に要約しています。これらは、この現実の世界で幸いをもたらすと言われているものとは非常に異なっています。事実ここで述べられている幸いは、この世の人々が自分たちを幸せにしていることと正反対であるとすら言えるかもしれません。

幸いの代わりに「祝福される」という言葉が使われている訳もあります。ここで使われている幸いを理解するもう一つの方法は、「幸い」の代わりに「満足」という言葉を使うことかも知れません。喜びや満足感は、私たちが単に楽しむことによりも、神に従い、奉仕することによってより多くもたらされるのです。

この9つの至福のリストは福音的な生き方の中心の価値をまとめています。いくつかは旧約聖書に

挙げられています。しかしイエスは、私たちの生活を導くすばらしい規範を提供するために、すべての話の筋をいっぺんに引っ張ります。焦点はいつも私たちと神、そして他の人との関係です。有名・無名の聖人達はこれを学び、身につけたのですから、私たちにもできるはずです。真の幸いはこれらの至福の教えを過ごす中でのみ見いだされるのです。

Meditatio …黙想する

至福の教えのうち、どれがあなたには一番心に残るでしょうか。

一番難しそうなのはどれでしょうか。イエスの教えをこの週の間、どのように実践して行くかよく考えてみましょう。

ルカのこの教えの説明を見た、年間第 6 主日 (2 月 14 日) を見直してみましょう。両方の説明を見て、どちらがあなたの心を打ちますか。

Oratio …祈る

この至福の教えを数回、読み通してみましょう。聖霊が、あなたに語りかけてくれるように願いましょう。これらの態度について、神があなたに語っていると感じることを記録してみましょう。あなたが特に弱く感じている部分で、あなたを助けてくれるように神に願いましょう。

詩編 24 編 1～6 節を読んでみましょう。これらの言葉を今日の祈りの時に用いてみましょう。

Contemplatio …観想する

「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。」(Iヨハネ 3 章 1 節)

この箇所が明らかにしている、神のあなたへの愛の深さについて思い返してみましょう。神へあなた自身の返事をしてみましょう。